

『早春の花めぐり！』 揖斐川の美しき菜の花風景



福東大橋と菜の花風景（平成26年3月22日撮影）

- 「母なる川」揖斐川は、季節ごとや場所ごとに様々な表情を見せながら悠々と流れています。花が咲く早春は特に表情が豊かで、揖斐川の堤防を車で走りますと、所々に黄色いじゅうたんを敷き詰めたような風景に出くわします。3月末までに河川工事を終え、一段落した工事現場の傍らで、待ちわびたかのように一斉に黄色の花を咲かせ、河川利用者や車のドライバーたちの目を和ませてくれます。実は、この黄色の花は、一般に‘菜の花’と呼ばれているもので、アブラナ科の植物の花全般を言うようです。聞くとところによると、全国各地の河川敷に咲く菜の花の大半は「カラシナ」と呼ばれるもので、明治以降に日本に帰化し、西日本を中心に広がっていったようですが、今回、写真撮影を行った揖斐川中流部に咲く菜の花の正体が一体何なのか？ 素朴な疑問から早速調査を行ってみました。



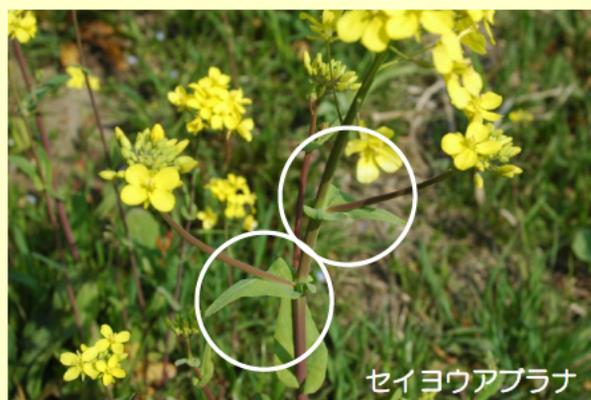
揖斐川左岸36.4Kp（安八町牧地先）平成26年3月22日撮影



揖斐川右岸32.0Kp（輪之内町塩喰地先）平成26年3月22日撮影

揖斐川堤防の河川敷に咲く、あの黄色い『菜の花』の正体は何？

- 詳しい人だと花の大きさや咲き方を見るだけで大体の見当はつくそうですが、そのような知識はありませんので、一番簡単な見分け方として、「葉っぱの付け根と茎の状態を観察すること」と、インターネットの記事に紹介されていましたので、その情報を基に判別してみました。



セイヨウアブラナ



セイヨウカラシナ

- ご覧のように、セイヨウアブラナは葉っぱの付け根が茎を抱きかかえるような形をしているのに対し、セイヨウカラシナはごく普通で葉で茎を抱えていないことが大きな違いとして挙げられます。上記の2枚の写真は何れも、同時期に揖斐川河川敷で撮影したもので、揖斐川ではセイヨウアブラナとセイヨウカラシナが混生していることが分かりました。

■カラシナの種は‘からし’の原料？

- カラシナは別名「セイヨウカラシナ」とも言って、油菜科で菜の花と同じ分類に属しますが、よく食用としてスーパーなどで売られています菜の花とは異なります。しかし、菜の花ではないと言っても食べることはできます（元々食用として導入されたものが野化した植物）

カラシナというその名前から連想できる通り、カラシナの種子は‘からし（芥子）の原料’となります。また、春先にとち立ちしたものは漬物としても食べられます。



納豆に添えられたからし

【出張所コメント】

- 菜の花の開花が終わりますと、今度は、5月から7月頃にかけて、「オオキンケイギク」の黄色い花が河川敷や堤防の土手一面に咲き誇ります。このオオキンケイギクは、日本古来の在来種に悪影響を与える恐れがあるため、平成18年2月に特定外来生物に指定され、防除の対象となっています。

このように、カラシナやオオキンケイギクなど、河川敷に広がる黄色いじゅうたんは、たしかに春の風景として美しく、見る者を癒やしてくれます。また、花名所として観光化しているところもあります。しかし、これらの外来種が、そこに本来生きてきた希少な在来種が圧迫されていることを考えますと、素直に喜んでばかりもいきません。